※令和４年度以降入学生用

学校番号	411

令和８年度　理科

教科	理科	科目	生物基礎(３年)	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校　生物基礎（啓林館）						
副教材等	センサー生物基礎＋生物　4th Edition（啓林館）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・生物の体について理解することは、自分自身を知ることにつながる。テストのための暗記ではなく、「理解すること」を大切にして欲しい。
・そのために、板書を写すだけでなく、理解を助けるためのメモ等の書き込みを心がけ、自分独自のプリント（ノート）を作り上げよう。

２　学習の到達目標

a. 生物の細胞と個体、遺伝子と個体の関係性を理解し、関連する基本的知識を身につける。
b. 健康とは、身体各部の働きのバランスがとれた状態であることを理解するとともに、健康のための取り組み（医療・健康食品等）について適切な判断ができる力を身につける。
また、生態系へのはたらきかけは、そのバランスを崩す可能性があることを理解し、自身の行動や社会の問題などに目を向け思考することができる力を身につける。
c. 自身の身体について関心を持ち、理解を深めようとする態度を身につける。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	多様な生物の存在を知り、ＤＮＡを含む生体内の物質のはたらきについて知る。学習内容を多面的に理解して、演習問題の意味を読み取ることができる。	健康のための取り組み（医療・健康食品等）や、人間による生態系へのはたらきかけ（開発と保護）に関して、適切な判断ができる。	自分の身体の構造や機能について関心をもち、積極的に理解を深めようとする態度を身につける。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	生物の特徴（細胞・生化学）	○生物の共通性と多様性 ○生物とエネルギー	a: 重要な生体物質について、その特徴を示すことができる。生体内での各化学反応の経路を正しく示すことができる。 b: 生体内での化学反応が、各生物で共通していると実感できている。 c: 生体内での化学反応について、その重要性を予感して理解しようとする姿勢を示している。	問題演習 レポート 実験 レポート 定期考査	問題演習 レポート 実験 レポート 定期考査	授業観察 授業ﾌﾟﾘﾝﾄや問題集・実験レポートへの取り組み
二学期	遺伝子とその働き／人の体の調節	遺伝子とその働き ○遺伝情報と DNA ○遺伝情報とタンパク質の合成 神経系と内分泌系による調節 ○情報の伝達 ○体内環境の維持の仕組み 免疫 ○免疫の働き	a: ＤＮＡによるタンパク合成の流れを正しく示すことができる。おもなホルモンの名称とはたらき、免疫細胞の種類とはたらきについて示すことができる。 b: 学習内容と、自己の「健康」を結び付けて考えることができる。 c: 「生きている」こととＤＮＡの関連、また生体内の化学的事象のバランスについて、関心を持ち理解しようとする。	問題演習 レポート 実験 レポート 定期考査	問題演習 レポート 実験 レポート 定期考査	授業観察 授業ﾌﾟﾘﾝﾄや問題集・実験レポートへの取り組み
三学期	生物の多様性と生態系	植生と遷移 ○植生と遷移 生態系とその保全 ○生態系と生物の多様性 ○生態系のバランスと保全	a: 生態系に関するいくつかのトピックスについて解説できる。生態系に関する表やグラフを読み取ることができる。 b: 安定した生態系は微妙なバランスの上に成り立っていることに気づく。 c: 環境保護のためには、生態系についての理解が必要で、それを身につけようとする。	問題演習 レポート 実験 レポート 定期考査	問題演習 レポート 実験 レポート 定期考査	授業観察 授業ﾌﾟﾘﾝﾄや問題須臾・実験レポートへの取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度